

平成21～23事業年度評価を行った際における評価委員からの主な意見

- 両病院とも大変うまく機能しており、法人化、PFI、移転の3つを着実に実施し、業績を伸ばしている。今後も地方独立行政法人やPFI事業のモデル病院となるよう努力されたい。
- 患者の満足（CS）はもちろんのこと、職員のやりがい（ES）を考え、職員のモチベーションが維持できる仕組みづくりを考えてほしい。
- 医療スタッフが疲弊していないか。医療クラークを充分機能させるなど医療スタッフをケアすることによって職員が疲弊していないかどうかについて、今後見ていく必要である。
- 地方独立行政法人になった事で、経営的には成果が出てきているが、今後は、特に人材の雇用に加え、教育・研修に力を入れる必要がある。
- 学生の受け入れにあたっては、現場の体制や学生の質を考慮することにより、看護師の指導力も向上し、資質が上がるのが重要である。
- DPCの分析やクリニカルパスなど診療情報による経営マネジメントが重要であり、経営的な分析が必要である。
- 目標や評価委員会の評価を組織の末端（病院で働くすべての職員）まで浸透させて、目標に取り組みされたい。
- 中央市民病院移転に伴う一時的な減収や今後の企業債償還に備え、財政の健全化を確立するよう努力されたい。
- 市民病院が在院日数短縮に取り組んでいる背景を患者に理解してもらえる機会を作ることにより、患者側も理解が深まるのではないか。
- 医療サービスとその他のサービスとの連携がうまく進められるようPFI事業者とコミュニケーションを図り、今後も良好な関係を維持していく必要がある。